

平成22年ホヤ類調査結果速報 No. 3

平成22年9月21日

渡島北部地区水産技術普及指導所

胆振地区水産技術普及指導所

北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

【アドレス：<http://www.fishexp.hro.or.jp/exp/hakodate/>】

9月6日～14日に、噴火湾沿岸において、ホタテガイ付着生物の調査を行いましたので、その結果をお知らせいたします。

結果概要

- ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着数が増加しています。現在付着している個体のサイズは5mm未満の個体が半数近くを占めており、今後、成長に伴う付着量の増加に注意が必要です。
- 今回の調査では、特に長万部地区の上層、八雲地区の中層で、ヨーロッパザラボヤの付着量が多く、両地区では、今後のヨーロッパザラボヤ付着量の増加に特に警戒が必要です。
- 付着個体は先月下旬に引き続き、5mm未満が中心であること、および、浮遊幼生の出現が確認されていることから、ヨーロッパザラボヤのホタテガイへの付着は現在も継続していると推測されます。
- ヨーロッパザラボヤの付着が継続している状況で、ホタテガイの付着物を除去すると、新たなヨーロッパザラボヤの付着を促進する可能性があります。貝洗いについては、新たな付着が減少してから実施することが望ましいので、今後、関係機関（指導所、水試）の調査結果を参考として実施時期を検討してください。
- 次回は、9月下旬に函館水試が実施する八雲地区の定期調査結果（付着物、浮遊幼生調査結果）を配信する予定です。

問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 金森・馬場
TEL: 0138-57-5998 FAX: 0138-57-5991

1 : 渡島北部、胆振管内調査結果

[調査月日 : 9月6日~14日、調査地区 : 礼文、長万部、八雲、落部、森、砂原、鹿部]

図1 各地区の種類別付着物重量(9/6~9/14)

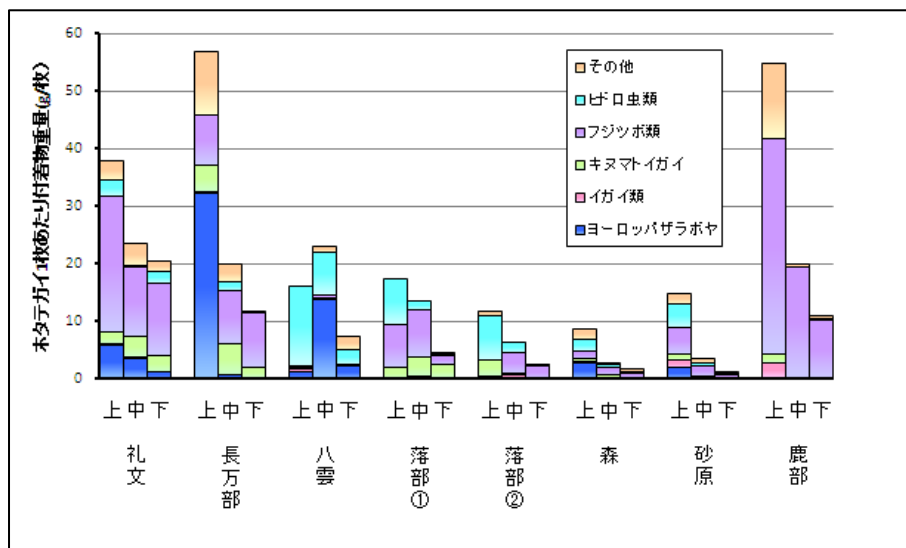
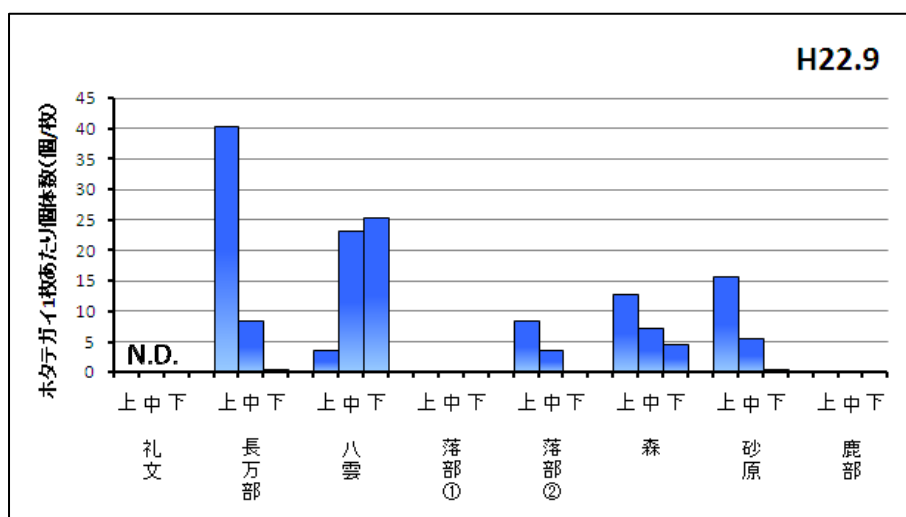
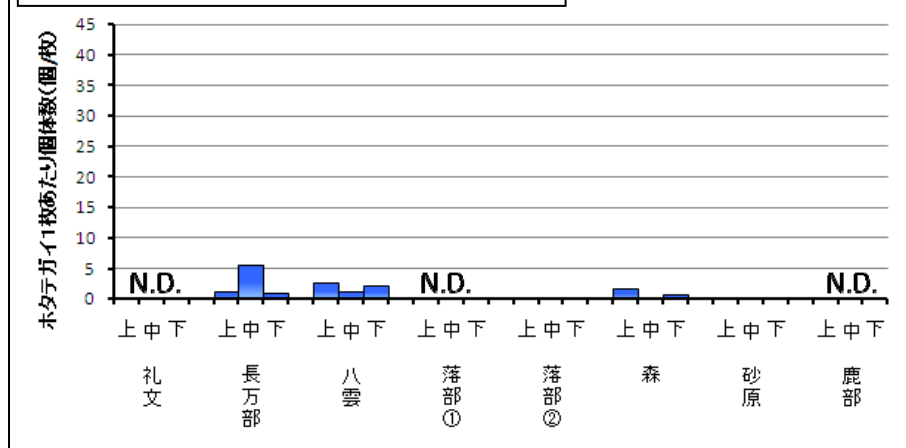


図2 各地区のヨーロッパザラボヤ付着個体数(9/6~9/14)



先月(8/2~3)の調査結果(参考)

H22.8



※1 落部①と②は、それぞれ3月に垂下した連と5月に垂下した連です。
 ※2 礼文およびH22.8の落部①と鹿部は個体数調査を実施していません。

図3 付着個体のサイズ組成

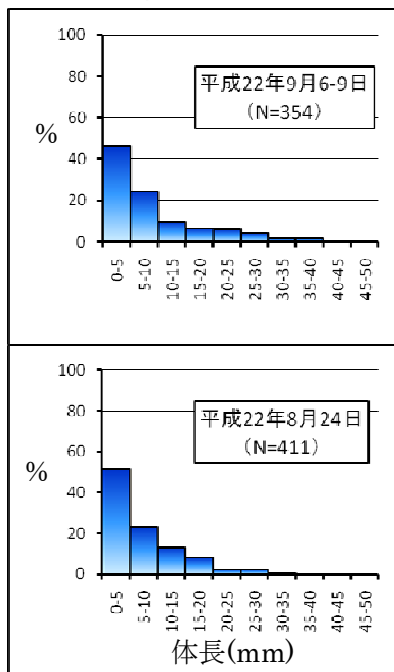
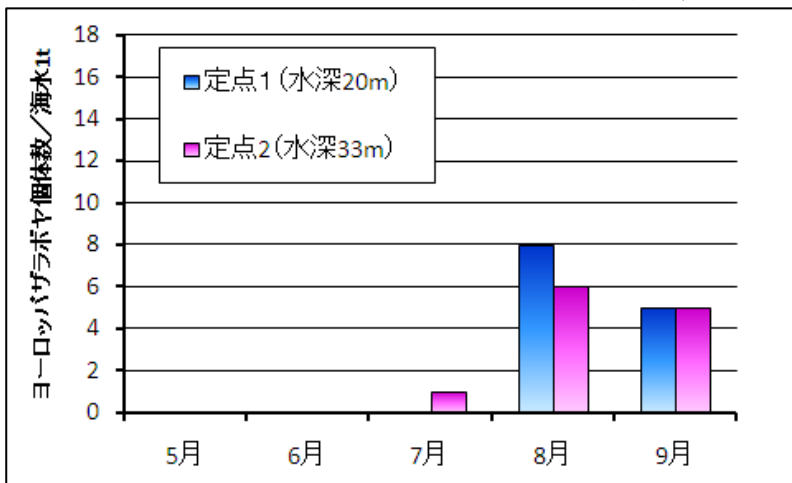


図4 豊浦町礼文華沖合浮遊幼生調査結果(9/14)



※サイズ組成については、9月上旬は長万部、森、砂原地区のサンプルで測定。8月下旬のデータは函館水試定期調査(八雲)で測定した結果です。

[礼文地区]

付着物量は他地区と比べて多く、全層でフジツボ(ハナフジツボ)の比率が高いです。上層、中層では付着物の15%以上をヨーロッパザラボヤが占めています。また、沖合でヨーロッパザラボヤの浮遊幼生の出現が確認されています。新しい個体の付着および付着個体の成長による付着重量の増加に対して、注意して下さい。

[長万部地区]

付着物は他地区と比べて多く、上層では、今回の調査で最も多くヨーロッパザラボヤが付着していました。上層に限れば、一昨年の同時期と変わらない付着量です。今後の付着量の増加に特に警戒して下さい。

[八雲地区]

付着物は多い地区の半分程度ですが、ヨーロッパザラボヤの割合が高く、中層では60%を超えています。また、下層では微小な個体が多く付着しています。今後、下層でもヨーロッパザラボヤが目立つ状態になる可能性が高いと言えます。長万部地区同様、今後の付着量の増加に警戒して下さい。

[落部地区]

3月垂下(①)の方が、5月垂下(②)よりも付着物が多く、付着物量は垂下期間に比例して増加しています。しかし、ヨーロッパザラボヤは、大部分が5月垂下(②)に付着していました。3月垂下(①)については、ヨーロッパザラボヤの付着より先に、他の付着物が付着することで、ヨーロッパザラボヤの付着が緩和されている可能性があります。耳吊り時期が遅かった連におけるヨーロッパザラボヤ付着重量の増加に対して、特に注意して下さい。

[森地区]

付着物は、他地区と比べて少ない状態です。しかし、全層で付着物の15%以上をヨーロッパザラボヤが占めており、上層ではホタテガイ1枚あたり平均10個体以上のヨーロッパザラボヤが付着しています。付着個体の成長による付着重量の増加に対して、注意して下さい。

[砂原地区]

付着物量は他地区と比べて少ない状態です。しかし、上層では付着物の15%以上をヨーロッパザラボヤが占めており、ホタテガイ1枚あたり平均15個体以上のヨーロッパザラボヤが付着しています。付着個体の成長による付着重量の増加に対して、注意して下さい。

[鹿部地区]

付着物量は他地区と比べて多く、全層でフジツボ類(ハナフジツボ)の比率が高いです。ヨーロッパザラボヤの付着は上層で確認されています。

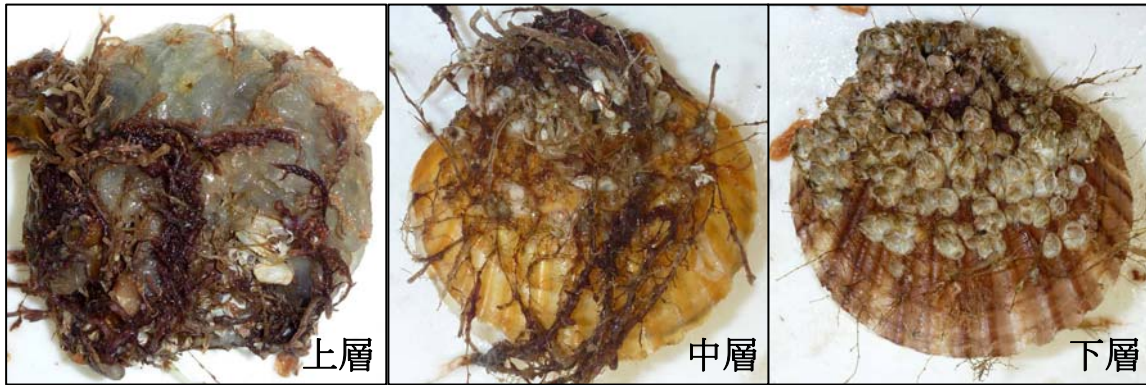
2：噴火湾のザラボヤについて(参考)

平成20年に噴火湾の垂下養殖ホタテガイに大量に付着し、問題となっている「ザラボヤ」は、外来種ヨーロッパザラボヤであることが、東邦大学と函館水産試験場の共同研究で明らかとなりました。在来種と区別するため、本速報ではヨーロッパザラボヤという名称を用いています。

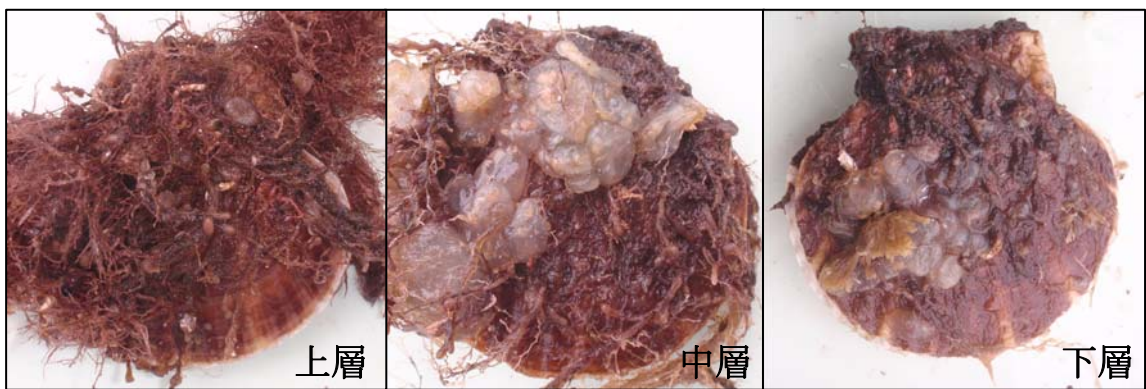
和名：ヨーロッパザラボヤ
学名：アスキジエラ・アスペルサ
Ascidrella aspersa (Müller 1776)
原産地：大西洋(北欧～北西アフリカ沿岸)、
バルト海および地中海



長万部地区 平成 22 年 9 月 9 日



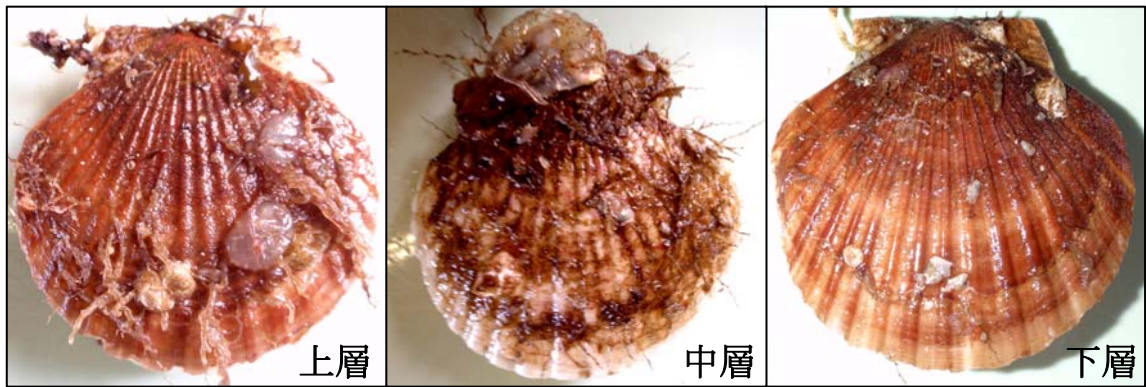
八雲地区 平成 22 年 9 月 6 日



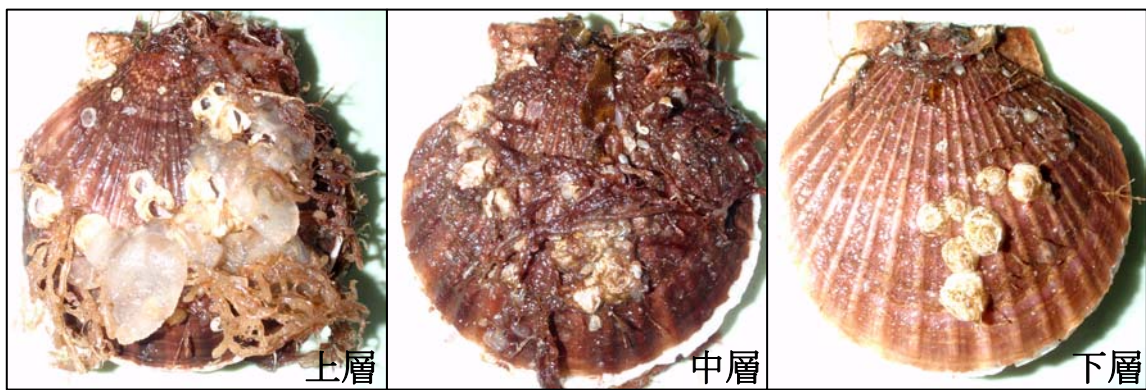
落部地区 平成 22 年 9 月 6 日



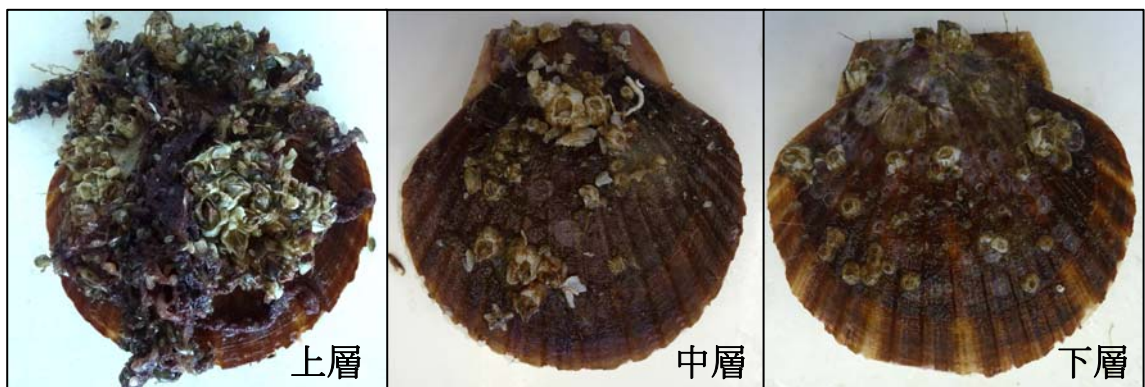
森地区 平成 22 年 9 月 7 日



砂原地区 平成 22 年 9 月 7 日



鹿部地区 平成 22 年 9 月 8 日



※礼文地区の付着状況の画像については、胆振地区水産技術普及指導所が発行する「平成 22 年度養殖ホタテガイモニタリング調査結果報告(9月)」を参照して下さい。